

**足場穴** 南面回廊の南雨落溝の下で、東西に並ぶ径80cmほどの回廊造営時の足場穴を検出しました。

**瓦溜2** 南面回廊基壇の南で、礫敷を取りはずし、朝堂院朝庭の整地土を20～40cm掘り下げたところ、回廊に沿うように瓦が堆積していました。回廊造営時に不要になった瓦を廃棄したものと考えられます。

**南北大溝・東西大溝** 瓦溜2の下層で、幅2～3m、深さ70cm以上の南北大溝と東西大溝を検出しました。南北大溝は、153次調査区の斜行溝(B)を北に延長した溝で、回廊基壇の下を通り、本調査区の北へと延びています。東西大溝は、南北大溝よりも新しい溝です。北へ延びていた南北大溝を、調査区南端から6mほどの位置、回廊基壇の南で東へ付け替えたものと考えられます。これらの溝の中には、木材の削屑が多く混ざる粘土が堆積しており、柱などの建材を運搬・加工する際に利用されたと推定されます。

**沼状遺構** 南北・東西大溝の南東にある、東西11m、南北4m以上の沼状に広がる遺構です。153次調査で確認された沼状遺構とあわせると南北が37m以上の規模となります。南北・東西大溝との間は、整地土が土手状に残されており、同時期の遺構である可能性があります。瓦片や木材の削屑が出土しました。

**先行四条大路北側溝** 調査区の西北部で南肩を確認しました。直交する南北大溝よりも古い遺構です。

**3. 出土遺物**

出土遺物の多くは瓦でした。現時点で軒丸瓦<sup>のきまる</sup>と軒平瓦<sup>のきひら</sup>が各々約140点あるほか、回廊造営時に廃棄された瓦に、<sup>のし</sup>熨斗瓦や<sup>たにどい</sup>谷樋瓦などの特殊な形の瓦が出土しています。

#### 4. まとめ

**大極殿院回廊と朝堂院回廊の接続部を確認** 大極殿院回廊と朝堂院回廊の接続部を初めて本格的に調査しました。両回廊の構造や造営の様子に時期差はなく、同じ設計計画によって一体的に造られたものと考えられます。

**造営工事の過程がより明らかに** 153次調査区の運河を掘り直した斜行溝(B)が、南北大溝として北へ延びることと共に、のちに回廊の南で東西大溝へと進路が変更されたことがわかりました。大極殿院南門や回廊を造営する工程に合わせ、資材運搬に関わる溝が整備されたと考えられます。これらの溝の行方をはじめ、今後も藤原宮について、さらに解明していく必要があります。



今回の調査で出土した瓦



運河と斜行溝(153次調査で検出・南から)



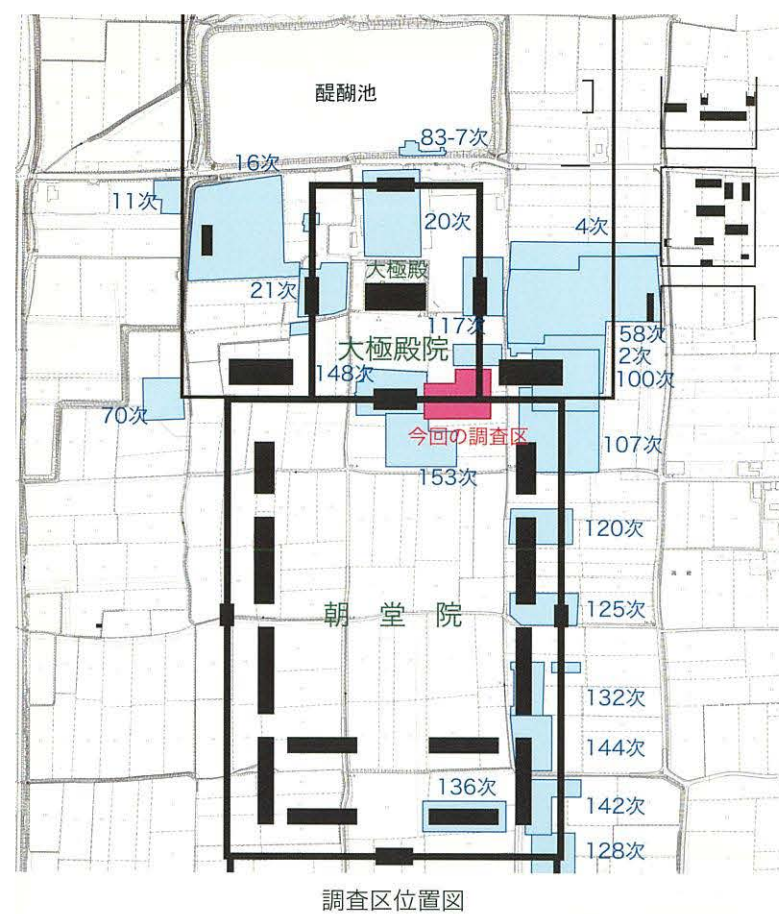
回廊造営時の瓦溜2(南面回廊南方を東から)



# 藤原宮 大極殿院回廊の調査

飛鳥藤原第160次調査 現地説明会資料

独立行政法人 国立文化財機構  
奈良文化財研究所 都城発掘調査部



## 1. はじめに

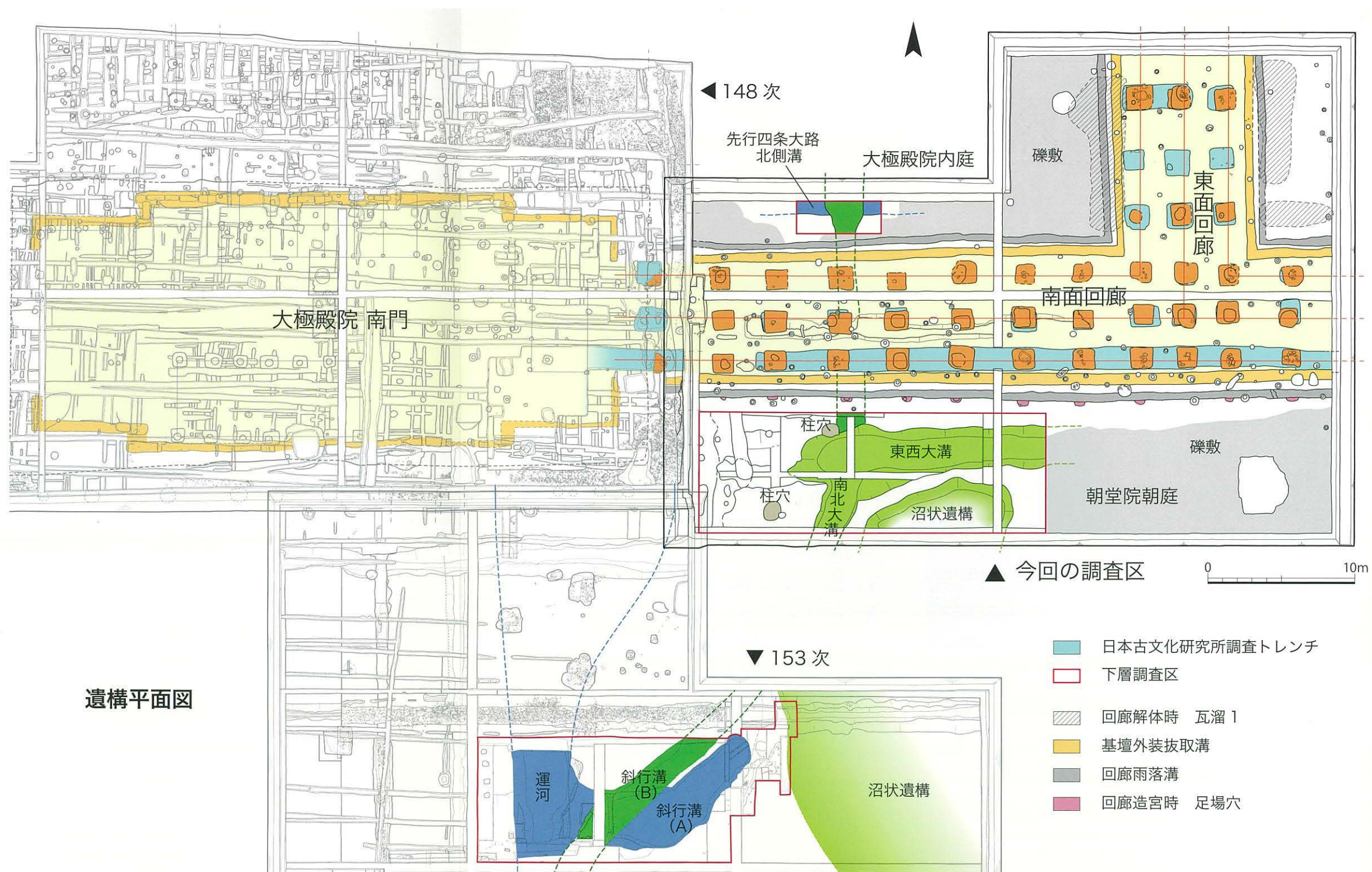
藤原宮（694-710年）の中心部には、天皇の空間である大極殿院、臣下の空間である朝堂院が位置し、様々な政務や儀式の場として使用されました。今回の調査地は、大極殿院回廊東南隅です。これに朝堂院北面回廊が接続しています。日本古文化研究所のトレンチ調査（1934年）によって、この回廊が礎石建ち、複廊形式であることが判明していましたが、詳細な構造を解明する調査は今回が初めてです。また、昨年の朝堂院朝庭の調査（飛鳥藤原第153次調査）では、藤原宮を造営する際に、資材運搬用として掘られた運河を大極殿南門の建設時に斜行溝として掘り直したことが想定され、その様相を明らかにすることも課題となりました。

## 2. 調査の成果

### A 藤原宮期から廃絶後まで

**回廊** 今回は南面回廊10間分（約40m）、東面回廊5間分（約18m）を調査しました。礎石据付穴の多くは、礎石が抜き取られた根石が残る浅い穴として確認され、2つの穴にのみ礎石が残存していました。柱間は桁行約4.2m（14尺）、梁行約3.0m（10尺）で、大極殿院回廊の隅部分2間四方については、桁行・梁行ともに3.0mです。ただし、南門から東へ3間目は、桁行約3.6m（12尺）とやや狭くなります。

基壇土の大部分は既に削平されていますが、南面回廊西半部は高まりとして残っています。基壇幅は、基壇外装抜取溝（幅50～60cm）の中心間の距離で、約8.4m（28尺）となります。また、側柱筋から約2.5m外側に、砂が薄く堆積



## 遺構平面図

する浅い雨落溝（幅40～50cm）を確認しました。  
**礎敷** 大極殿院内庭、朝堂院朝庭ともに、径5～10cmの礎を敷いた広場としています。  
**足場穴** 基壇上を中心に、径40cmほどの足場穴を複数検出しました。これは回廊を解体する際に組んだ足場用柱の跡と推定されます。ただし、回廊廃絶後に建てられた小規模な掘立柱建物の柱穴の可能性も残り、今後の検討が必要です。  
**瓦溜1** 東面回廊周辺に瓦片が散布していました。基壇縁に特に集中的に堆積しており、回廊解体時に廃棄された瓦であると考えられます。  
**B 藤原宮造営期の遺構**  
 下層調査区を設定し、礎敷下で藤原宮造営期の遺構を調査しました。



回廊東南隅（東から）



回廊解体時の瓦溜1（東面回廊を北西から）